Ⅷ　修　学　案　内

1　農学研究科の教育研究の理念

1　農学研究科の理念と目標

農学は，自然及び人工生態系の保全を図り，衣食住のもととなる生物資源の生産・管理・利用と開発を通じて人間社会に貢献する「持続共生の科学」を理念としています。この農学理念の実現に向かう教育研究組織としての農学研究科は，「食料・環境・健康生命」に関わる諸問題を総合的に教育研究することを基本目的とし，各キーワードに対応した以下の３専攻で組織されています。

(1) 食料共生システム学専攻は，農業工学及び農業経済学の知識と技術を協働し，食料の生産者と消費者が環境保全型持続社会を通して共生するための生産基盤構築から流通・消費に至る全プロセスの体系化を教育研究の目的としています。

(2) 資源生命科学専攻は，人類生存の根本的課題である食料生産の質と量の向上を図るため，動植物遺伝資源の探索・開発と改良を担い，21 世紀の食料生産に貢献することを教育研究の目的としています。

(3) 生命機能科学専攻は，農業と食料の基本となる生命現象を生物学・化学の両面から解明し，農産物および食品の安全性向上と機能開発を通して人の健康の維持・増進に貢献することを教育研究の目的としています。

農学研究科の大学院教育においては，これら専攻の専門性を発展・進化させるとともに，各専攻に学際性と総合性をビルトインし，専攻間で単位の互換や情報の交換による複眼的な見方や思考力を培う教育研究を展開します。このことにより，独創的な学術研究と科学技術開発を担う優れた研究者・教育者や指導的役割を担う高度専門職業人など，地域・国際社会で活躍できる人材を育成することを目指しています。

2　アドミッションポリシー（入学者受入れ方針）

農学研究科博士課程前期課程では，それぞれの専攻分野において幅広い知識をもつとともに，問題解決能力と学際的視点をもった創造性豊かな人材を養成することを目指しています。このため，農学分野の堅実な基礎学力を持つ人，論理的な思考能力に優れた人，農学に対して高い学習意欲をもつ人，知的好奇心に富み農学の探究に情熱をもつ人，さらには，産業社会や公的機関で農学の知識をさまざまな形で活用したい人などを受入れます。

農学研究科博士課程後期課程では，それぞれの専攻分野において高度な専門性と幅広い視野をもち，創造性と独創性を兼ね備えた人材を養成することを目指しています。このため，農学やその関連分野について修士レベルの基礎学力をもつ人，論理的な思考能力やプレゼンテーション能力に優れた人，知的好奇心に富み農学の探究に情熱をもつ人，研究者，教育者として活躍したい人，あるいは産業社会や公的機関で現に活躍中で，さらに高度専門職業人へのキャリアアップを目指たい人などを受入れます。

3　前期課程教育の特色

(1)「食料・環境・健康生命」に対応した研究科内横断型のコア科目を履修することによって，農学の幅広い素養と学際性を身につけることができます。

（2）専攻の前期課程授業科目は，より専門的な後期課程の授業科目とつながるように体系化されています。
（3）授業科目「プレゼンテーション演習」を履修することによって，研究成果をまとめる能力，発表する能力，表現する能力を身につけることができます。
(4) アジア地域の持続的食料生産と環境保全に関する授業科目を履修することによって，国際的視野から活躍するリーダーとしての素養を身につけることができます。

4　前期課程で取得できる学位と後期課程への進学

一定の単位を修得し，修士論文審査に合格した学生は，修士（農学）の学位を取得することができます。また，前期課程を修了した学生が引き続き後期課程に進学する場合には，後期課程への入学金は必要ありません。前期課程において優れた研究業績をあげた学生は１年以上の在学で修了し，後期課程に進学することができます。

5　後期課程教育の特色

（1）それぞれの専攻分野での高度な学術研究を基盤にした教育をうけることができます。
（2）英語論文作成能力や英語ディベート能力を向上させるとともに，海外の学術交流協定校との教育連携を活用し，国際の場で活躍できる能力を身につけることができます。
(3) 後期課程において優れた研究業績をあげた学生は，１年以上の在学で修了し学位を取得することができます（早期修了制度）。

6　後期課程で取得できる学位

一定の単位を修得し，博士論文審査に合格した学生は，博士（農学）又は博士（学術）の学位を取得することができます。

2　教育研究組織

研究科	専　攻	講　座	教育研究分野
農学研究科	食料共生システム学	生産環境工学	水環境学，土地環境学，施設環境学， 地域共生計画学，農産食品プロセス学， 生体計測工学，生物生産機械工学， 生物生産情報工学
		食料環境経済学	食料経済・政策学，農業農村経営学， 国際食料情報学
	資源生命科学	応用動物学	動物遺伝育種学，動物多様性利用科学， 生殖生物学，発生工学，栄養代謝学， 動物分子形態学，組織生理学，感染症制御学， 動物遺伝資源開発学，細胞情報学
		応用植物学	資源植物生産学，植物育種学，森林資源学， 園芸植物繁殖学，園芸生産開発学， 園芸生理生化学，熱帯有用植物学， 植物遺伝資源開発学
		食料生産フィールド科学（連携講座）	食料生産フィールド科学
	生命機能科学	応用生命化学	生物化学，食品・栄養化学，天然有機分子化学， 有機機能分子化学，環境分子物理化学， 植物機能化学，動物資源利用化学， 微生物機能化学，微生物資源化学， 生物機能開発化学
		農環境生物学	土壌学，植物栄養学，植物遺伝学， 栽培植物進化学，細胞機能構造学， 環境物質科学，細胞機能制御学， 植物病理学，昆虫分子機能科学， 昆虫多様性生態学

3　専攻及び講座の内容

(1) 食料共生システム学専攻

発展途上国における人口爆発や地球環境問題の深刻化に伴い，近未来における世界の食料供給が不安視されています。特に，著しく低い我が国の食料自給率は，食料の安定的な供給システムの創成を必要としています。食料共生システム学専攻では，食料の生産者と消費者が環境保全型持続社会を通して共生するための生産基盤構築から流通・消費に至る全プロセスの体系化を目的とした教育研究を行います。食料や環境に関する幅広い知識・技術を備え，公共部門および民間部門で活躍できる人材を養成するため，食料共生システム学専攻に生産環境工学及び食料環境経済学の2講座を設けています。

2019年4月1日現在

講座		教育研究分野		担当教員	
名称	内容	名称	内容		
生産環境工学	農業生産環境の構成要素である水資源・土地資源の利用と保全，作物の栽培管理・収穫・加工に関する機械装置の開発などの農業工学分野の教育研究を行います。	水環境学	河川流域の水循環機構および水量・水質の両面から見た水環境特性の把握，流域における水循環と物質循環のモデル化と水資源管理への応用に関する教育研究を行います。	田中丸治哉 多田　明夫	教授 准教授
		土地環境学	農地や農村のきれいで安全な環境づくりを目指して，ため池やパイプラインを含む農地，農道，水路などの農業水利施設の合理的な設計施工，災害防止の方法や手段に関する教育研究を行います。	河端　俊典 澤田　　豊	教授 助教
		施設環境学	水，土，水利施設などからなる農業地域システムの好適創造を目指して，水の動きの解析，地下水力学，水と土の相互作用，水利施設の調査・計画・設計・保全に関する教育研究を行います。	井上　一哉 鈴木麻里子	准教授 特命助教
		地域共生計画学	日本と世界の農業・農村環境は今急速に変化しています。様々な空間・時間スケールで環境と社会を分析し，持続的な資源管理と制度設計を模索します。	長野　宇規	准教授
		農産食品プロセス工学	農産資源および食品を対象とした物質変換，加工処理およびバイオプロセッシングに関する理論と技術，バイオマスエネルギー利用，生産から消費，廃棄に亘るフードチェーンの管理システムに関する教育研究を行います。	井原　一高 吉田　　弦	准教授 特命助教
		生体計測工学	生体が有する固有の生体情報の計測と解析，生体に生じる病変等の診断技術の開発，生体機能の解明を目的とし，非破壊・非侵襲計測法ならびに解析法に関する教育研究を行います。	ツェンコヴァ・ルミアナ	教授
		生物生産機械工学	主としてフィールドにおける作物の栽培システムを対象とし，栽培技術並びに作物特性の理解と工学的技術を融合し，生産に用いられる機械や装置の設計と開発，及び，システム構築に必要な計測と制御について教育研究を行います。	庄司　浩一	准教授
		生物生産情報工学	主として閉鎖系空間における生産と収穫後処理を包含する生物生産システムを対象とし，工学的手法による成育中及び貯蔵中に作物が示す応答特性の非破壊計測と理論的解明，得られた結果を生産現場にフィードバックするための統合生産システムについて教育研究を行います。	伊藤　博通 黒木信一郎	教授 助教
食料環境経済学	食料・農業・環境問題を解決するための理論や政策，農業経営の発展や農村社会の活性化方策，食料の生産・流通・消費に関する統計的処理や食料・農業関連産業のあり方などに関する社会科学的な教育研究を行います。	食料経済・政策学	世界や日本の食料需給と通商協定の関わり，先進国の農業政策と途上国の食料貧困の関係性，家計および家族の変化と日本人の食生活，経済格差や食料ロスなどの問題に着目しながら，食料・農業・環境政策のあり方を解明するため，経済学に基づく教育研究を行います。	草苅　仁	教授
		農業農村経営学	安全な農産物・食料を持続的かつ効率的に生産・供給していくための農業経営と食料・農業関連産業のあり方や，農山村地域の維持・発展に関して，経営学あるいは社会学の考え方や分析方法による理論的・実証的な教育研究を行います。	小野　雅之* 中塚　雅也	教授 准教授
		国際食料情報学	子どもや高齢者の食行動・食意識，貧困世帯や社会的弱者のフードセキュリティ，貧困と格差，農村開発などに関する国内外の社会調査データを用いた実証的研究，および社会調査や統計データなどの統計処理法に関する教育研究を行います。	金子　治平 石田　　章	教授 教授

備考：＊印は2020年3月で定年退職予定の教員。

(2) 資源生命科学専攻

食料や産業用原料となる動物や植物は，人類生存の鍵を握る重要な生物資源です。資源生命科学専攻では，有用な動物，植物，微生物とそれらの相互関係について，遺伝子・個体・集団・種・生態系レベルで基礎から応用に至るまでの教育研究を進めるとともに，生物資源の管理・利用と食料の効率的で持続可能な生産技術の開発，さらには安全・安心な食料生産に関わる教育研究を推進しています。これによって，高度な専門的知識と総合的な思考力をもち，食料生産から先端バイオ分野までの幅広い領域を担うことのできる人材を養成します。資源生命科学専攻には応用動物学講座と応用植物学講座の2講座が設けられており，それぞれ動物と植物を中心にした教育研究を展開しています。

2019年4月1日現在

講座		教育研究分野		担当教員	
名称	内容	名称	内容		
応用動物学	遺伝学，生化学，形態学，免疫学的手法を基に，動物に関わる生命現象および動物の有する多様な機能とその制御機構を集団・個体・細胞・分子レベルで総合的に理解し，動物資源を有効，安全かつ安定的に利用するための教育研究を行います。	動物遺伝育種学	動物の多様な特性の発現を支配する遺伝的メカニズムの解明や遺伝的能力の評価と開発を通じて，動物機能を有効に利用するとともに，遺伝資源の探索と多様性の保全に関する教育研究を行います。	万年　英之 笹崎　晋史	教授 准教授
		動物多様性利用科学	動物個体群の多様な食環境への適応能力や腸内細菌に関する研究を通じ，家畜やヒトの健康に資する新しいバイオテクノロジーの創出を目的とした教育研究を行います。	大澤　朗	教授
		生殖生物学	細胞内シグナル伝達機構を中心に，哺乳類の雄性配偶子の生理や機能発達に関する教育研究を行います。	原山　洋	教授
		発生工学	哺乳類の配偶子形成や受精・胚発生に関わる分子・細胞レベルでの制御機構の解明と，発生工学的な新規手法の確立に関する教育研究を行います。	宮野　隆 李　智博	教授 准教授
		栄養代謝学	遺伝子から個体レベルにわたる栄養素の代謝調節機構の分子生物学的な解明と，それに基づく分子栄養学的制御ならびに機能開発に関する教育研究を行います。	上曽山　博 本田　和久 實安　隆興	教授 准教授 助教
		動物分子形態学	生命科学の基盤をなす形態学の膨大な知見と最新の分子生物学的知見とを融合し，分子から生体までの幅広い分野を包含する教育研究を行います。	星　信彦 横山　俊史	教授 助教
		組織生理学	動物体の基本的構成要素である細胞や，これによって構築された各種組織の複合的な活動の結果として生じた様々な生理学的機能発現のメカニズムに関する教育研究を行います。	万谷　洋平	助教
		感染症制御学	動物や人の感染症の原因となる病原微生物について，生態学，疫学，感染発病機構ならびに防御機構の面から幅広く探究することを目的とした教育研究を行います。	佐伯　圭一 松尾　栄子	准教授 助教
		※動物遺伝資源開発学	持続的食料生産を担う効率的育種プログラムの策定を目指し，量的遺伝学および集団遺伝学的手法による動物遺伝資源の評価・利用に関する教育研究を行います。	大山　憲二 本多　健	教授 助教
		細胞情報学	生理活性物質やストレス・栄養変化といった外界環境からの入力が細胞の機能を制御する仕組みに関する教育研究を行います。	吉川　潮* 中嶋　昭雄	教授 准教授

備考：※印は附属食資源教育研究センターの教育研究分野。
＊印は2020年3月で定年退職予定の教員。

2019年4月1日現在

講座		教育研究分野		担当教員	
名称	内容	名称	内容		
応用植物学	日常生活を支えている資源植物である食用作物，園芸植物，産業用植物及び樹木の生理，生態，遺伝学的特性を理解し，それらの生産性と品質の向上を目指した教育研究を行います。	資源植物生産学	安全で持続性のある農業生産を確立するため，食用および産業用資源植物の生理生化学的・分子生物学的な機能解析を行い，資源植物の生産性向上を目指した教育研究を行います。	畠中　知子 笹山　大輔	准教授 助教
		植物育種学	農業上有用な遺伝子の検出と同定ならびに形質発現作用の解明を通じて，新たな育種素材の開発と育種効率の改善を目標とした教育研究を行います。	石井　尊生 石川　　亮	教授 准教授
		森林資源学	森林生態学，樹木生理学・組織学，森林病理学などの基礎知識をもとに，森林や樹木の機能を解明し，森林資源の保全と管理に貢献する教育研究を行います。	黒田　慶子 石井　弘明	教授 准教授
		園芸植物繁殖学	園芸植物の繁殖様式は，受粉・受精・種子形成の過程を経る種子繁殖と，それを経ない栄養繁殖に大別され，種子形成過程は果実の結実にも関連する。繁殖のメカニズムを解明・制御することで，種苗生産と果実生産に貢献するための教育研究を行います。	安田(高崎)剛志 藤本　　龍	教授 准教授
		園芸生産開発学	園芸作物の生産性と有用性を高めることを目的とし，環境ストレス耐性や機能性を備えた品種の育成と，光利用効率や作業性を高める施設栽培法の構築を行うことで，植物の機能開発と栽培のシステム開発に貢献する教育研究を行います	金地　通生 宇野　雄一	准教授 准教授
		園芸生理生化学	果樹，野菜，花卉などについて，その生育から収穫・貯蔵期にわたり，基本的な炭素や窒素の代謝をはじめ，二次代謝物も含めた代謝生理について，分子生物学的および生化学解析を行い，高品質な園芸作物の生産・流通・貯蔵に貢献するための教育研究を行います。	野村　啓一	教授
		熱帯有用植物学	熱帯の様々な環境で生育している植物の適応メカニズムについて，分子から生体レベルまでの幅広い視野で解明することにより熱帯有用植物の生産安定を目指した教育研究を行います。	東　　哲司 深山　　浩	教授 准教授
		※植物遺伝資源開発学	持続的食料生産を担うため，効率的育種プログラムの策定と新規育種素材の開発を目指し，植物遺伝資源の探索･収集･保存・評価・管理・利用に関する教育研究を行います。	山崎　将紀 片山　寛則 吉田　康子	准教授 准教授 助教
食料生産フィールド科学(連携)		食料生産フィールド科学	病害虫，環境，生物工学分野の実用的な技術開発と実証・実践を通じて，安定的かつ安全・安心な食料生産を目指した教育研究を行います。	山中　正仁 岩本　　豊 岩本　英治	客員教授 客員准教授 客員准教授

備考：※印は附属食資源教育研究センターの教育研究分野。

(3) 生命機能科学専攻

食と農に関わる生物の多様な機能と現象を分子レベルから生態系まで多面的に捉えて解析する能力を持ち，農作物，食品・化学・医薬等に関連したバイオ産業の発展や農環境の保全と創造など，生物とその機能の利用，開発，制御を通じて 21 世紀のバイオ社会を支える人材を育成します。特に，専門領域を対象に視点に幅を持たせ，食品系，化学系，生物系など，実際の進路選択も念頭に置いた体系的な講義カリキュラムを提供することにより，優れた科学的思考力と実験力，表現力を涵養します。このため，生命機能科学専攻に応用生命化学及び農環境生物学の 2 講座を設けています。

2019 年 4 月 1 日現在

講座		教育研究分野		担当教員	
名称	内容	名称	内容		
応用生命化学	生物が摂取・産生する物質や生物を取り巻く環境中の物質構造と作用，及び多様性に富んだ生命システムを分子レベルで解明し，これらを利用，合成，制御，開発するための教育研究を行います。	生物化学	生命現象を分子レベルで解明するため，遺伝子発現調節と細胞内シグナル伝達機構，細胞内オルガネラの機能，機能タンパク質の構造機能相関等について，バイオテクノロジーへの応用も視野に入れた教育研究を行います。	宇野　知秀 金丸　研吾	教授 准教授
		食品・栄養化学	食品に含まれる栄養成分と非栄養成分が，間接的あるいは直接的に情報伝達系を介してヒトの体を機能調節する機構を個体レベルから分子レベルにおいて解明し，機能性食品への開発も含めた教育研究を行います。	水野　雅史 橋本　堂史 藍原　祥子	教授 准教授 助教
		天然有機分子化学	生物活性を有する天然有機分子の化学合成法の開発や有機合成手法による化学構造と生物活性の相関関係の解明を目指した教育研究を行います。	久世　雅樹 姜　法雄	准教授 助教
		有機機能分子化学	有用有機化合物を効率的に供給する手段としての有機化学に関する研究を行い，特に，環境への負荷の小さい，環境調和型の新有機合成反応の開発を目指した教育研究を行います。	三宅　秀芳	教授
		環境分子物理化学	生体に影響を与える環境中の微量元素や，それらを含む様々な生理活性分子の構造機能相関および反応機構を物理化学的なアプローチにより本質的に理解するための教育研究を行います。		
		植物機能化学	植物二次代謝産物の化学構造・生合成・作用機構，および植物と周囲の生物との相互作用ならびに環境応答を，解明・解析することを通して，植物機能の理解と応用に関する教育研究を行います。	杉本　幸裕 水谷　正治 山内　靖雄	教授 准教授 助教
		動物資源利用化学	動物資源としての蛋白質と脂質に着目し，その機能を調べることにより，新規マーカーの創生とヘルスケア商品や創薬への応用を目指しています。一方で，食肉の熟成及び呈味機構の解明と，食肉・肉製品の品質改善及び評価方法の開発を行います。	白井　康仁 山之上　稔 上田　修司	教授 准教授 助教
		微生物機能化学	微生物が有する特異な代謝能力とそれを支えるゲノムの構造・機能・調節機構を解明するとともに，それらを合成生物学的な代謝工学に応用して有用物質の生産につなげる教育研究を行います。		
		微生物資源化学	微生物資源の利活用を目的として，自然界から有用微生物を探索し，その酵素系や遺伝子群の特性を明らかにするとともに，それらを物質変換や環境改善へ応用する教育研究を行います。	竹中　慎治 木村　行宏	教授 准教授
		生物機能開発化学	生物の優れた機能や機能分子を見出し，その作用機構を解明することで，健康・食糧・環境に関わる諸問題の解決に向けた教育研究を行います。	芦田　均 山下　陽子 福田伊津子	教授 准教授 助教

2019年4月1日現在

講座		教育研究分野		担当教員	
名称	内容	名称	内容		
農環境生物学	多様な生物が農環境（農業生態系）で織り成す生命現象を解明し，農環境の健全性を保ちながら持続可能な生物生産システムを創造するための教育研究を行います。	土壌学	地球温暖化や気候変動に大きな影響をもたらす土壌生態系における炭素循環プロセスを理解するために，土壌や河川・湖沼中の有機物の質と量を解析しています。また，これらの有機物の機能性に着目し，環境保全・修復への活用法の策定をも目指した教育研究を行います。	藤嶽　暢英 鈴木　武志	教授 助教
		植物栄養学	植物成長の鍵となる光合成および無機養分の生理的営みを解明することを目的に，生理生化学的・分子生物学的手法を用いて新規な事実を明らかにするための研究技術・思考法を身につける，かつ，それらをバイオマス増産に役立てる教育研究を行います。	三宅　親弘 和田　慎也	教授 助教
		植物遺伝学	植物は様々な環境下で長い時間をかけて多様性を生みだしてきましたが，集団の分化や種内多様性をもたらす遺伝子の同定や，種間雑種を利用したゲノム間相互作用に関与する遺伝因子の解析を通して，新たな種が成立する遺伝機構の理解を目指し，その成果の育種利用も念頭においた教育研究を行います。	宅見　薫雄 吉田健太郎	教授 准教授
		栽培植物進化学	栽培化を経て生まれた栽培植物は，以降人類との共生関係を築いてきました。当分野では遺伝学，生態学，フィールド科学など多元的な教育研究を重視し，栽培化に関与した遺伝子の同定とその機能の解明を通じた栽培植物や近縁野生種の多様性と進化機構の理解を目指します。	森　直樹	教授
		細胞機能構造学	生物の基本単位は細胞にあります。農作物に限らずあらゆる生物が持つ機能を人間社会で有効に利用するためには，細胞の機能や構造に関する知見が必須です。当教育研究分野では，特に真核微生物（主に糸状菌）を材料として，分子生物学と電子顕微鏡等を用いた細胞学により，エピジェネティックな遺伝子制御機構や植物への感染機構の解明に関する研究を進めています。	中屋敷　均 池田　健一	教授 准教授
		環境物質科学	生命環境および農環境中への環境負荷物質の拡散が懸念されています。これら環境負荷物質に対し，応用遺伝子工学的手法，応用生物工学的手法を駆使した研究と実証・実践を通じ，安全・安心な生命環境を目指した教育研究を行います。	今石　浩正 森垣　憲一 乾　秀之	教授 准教授 准教授
		細胞機能制御学	細胞は，タンパク質のリン酸化などによる分子形状変化や相互作用を通じて環境シグナル分子情報を細胞内に伝達しています。植物のもつ情報伝達機能制御メカニズムの分子レベルでの解明を目指した教育研究を行います。		
		植物病理学	植物病原微生物の病原性機構，植物の抵抗性機構，ならびに両者の相互作用のダイナミクスを生理・生化学，遺伝学，分子生物学などのさまざまな手法を用いて解析し，植物の病理現象の理解に向けた教育研究を行います。	土佐　幸雄	教授
		昆虫分子機能科学	昆虫の多様性と特異性を，人を始め他の動物との比較の中から解明し，昆虫の形態形成や行動，生理機能を制御するメカニズムを，分子的，物質的なレベルで明らかにし，害虫防除や有用昆虫の資源利用の道を探る教育研究を行います。	坂本　克彦	教授
		昆虫多様性生態学	植物の宿敵あるいはパートナーとして長い共進化の歴史を持つ昆虫について，その多様性，生態系機能および植物や微生物との相互作用を理解し，害虫抑制，花粉媒介，物質循環，文化的価値など，昆虫による生態系サービスを増進するための教育研究を行ないます。	前藤　薫 杉浦　真治	教授 准教授

4　授業科目開講予定一覧

（前期課程）

（食料共生システム学専攻）※グローバルコースを除く

授業科目	単位数	開講曜日時限	必修・選択の別	授業時間数				授業担当教員	備考
				1年次					
				1Q	2Q	3Q	4Q		
*先端融合科学特論A（環境編）	1	金1	必修			15		各教員	
*先端融合科学特論B（Advanced Science and Technology）	1	金1	選択	15				〃	
食料・環境・健康生命（食料編）A	1		〃						19年度不開講
食料・環境・健康生命（食料編）B	1		〃						19年度不開講
食料・環境・健康生命（環境編）A	1		〃						19年度不開講
食料・環境・健康生命（環境編）B	1		〃						19年度不開講
食料・環境・健康生命（健康生命編）A	1		〃						19年度不開講
食料・環境・健康生命（健康生命編）B	1		〃						19年度不開講
食料共生システム学プレゼンテーション演習Ⅰ	2		必修	30				専攻教員	
食料共生システム学プレゼンテーション演習Ⅱ	2		〃			30		〃	
*Intermediate Techniques in English Speech Delivery	2	集中	選択		30			土佐　幸雄 Mabini DG. Dizon	
流域システム論1	1	火2	〃	15				田中丸　治哉	
流域システム論2	1	火2	〃		15				
流域水文環境論1	1	月4	〃			15		多田　明夫	
流域水文環境論2	1	月4	〃				15		
土地環境制御学1	1	水3	〃			15		河端　俊典	
土地環境制御学2	1	水3	〃				15		
施設環境学基礎論1	1	木2	〃			15		井上　一哉	
施設環境学基礎論2	1	木2	〃				15		
施設機能工学	2	月3･月4（隔週）	〃	30				村上　　章	隔年（20年度開講）
地理情報システム1	1	水2	〃	15				長野　宇規	
地理情報システム2	1	水2	〃		15				
土・車両システム論1	1	月3	〃			15		伊藤　博通	
土・車両システム論2	1	月3	〃				15		
生体計測工学論1	1	火2	〃			15		Tzenkova Roumiana	
生体計測工学論2	1	火2	〃				15		
栽培工程論1	1	木1	〃			15		庄司　浩一	
栽培工程論2	1	木1	〃				15		
環境・食品衛生工学1	1	月3	〃	15				井原　一高	
環境・食品衛生工学2	1	月3	〃		15				
食料環境経済論	2	月5 火5	〃			30		草苅　　仁	
開発経済論	2	水3 水4	〃	30				石田　　章	
農業組織経営学	2	火1 木3	〃		30			中塚　雅也	
食料産業システム論1	1	水2	〃	15				小野　雅之	
食料産業システム論2	1	水2	〃		15				
社会経済情報論1	1	火3	〃			15		金子　治平	
社会経済情報論2	1	火3	〃				15		
国際農業論	2	集中	〃		30			竹下　広宣	集中・隔年(20年度開講)

*課題開発演習	2		〃	30				各教員	
*特別連携講義	2		〃			30		連携教員	
*特定課題演習Ⅰ－1	3		必修	45				各教員	
*特定課題演習Ⅰ－2	3		〃	45				〃	
*特定課題演習Ⅱ－1	3		〃	45				〃	
*特定課題演習Ⅱ－2	3		〃	45				〃	
*（その都度定める科目）	1～4		選択						
（研究指導）									

（前期課程）

（資源生命科学専攻）※グローバルコースを除く

授業科目	単位数	開講曜日時限	必修・選択の別	授業時間数				授業担当教員	備考
				1年次					
				1Q	2Q	3Q	4Q		
*先端融合科学特論A（食料編）	1	金1	必修		15			各教員	
*先端融合科学特論B（Advanced Science and Technology）	1	金1	選択	15				〃	
食料・環境・健康生命（食料編）A	1		〃						19年度不開講
食料・環境・健康生命（食料編）B	1		〃						19年度不開講
食料・環境・健康生命（環境編）A	1		〃						19年度不開講
食料・環境・健康生命（環境編）B	1		〃						19年度不開講
食料・環境・健康生命（健康生命編）A	1		〃						19年度不開講
食料・環境・健康生命（健康生命編）B	1		〃						19年度不開講
資源生命科学プレゼンテーション演習Ⅰ	2		必修	30				〃	
資源生命科学プレゼンテーション演習Ⅱ	2		〃			30		〃	
*Intermediate Techniques in English Speech Delivery	2	集中	選択		30			土佐　幸雄 Mabini DG. Dizon	
動物ゲノム学	2	金3,4	〃		30			万年　英之 笹崎　晋史	
共棲生物機構学1	1	水4	〃			15		大澤　　朗	
共棲生物機構学2	1	水4	〃				15		
雄性繁殖生理学	2	月4,5	〃			30		原山　　洋	
動物生殖細胞学1	1	火3	〃	15				宮野　　隆	
動物生殖細胞学2	1	火3	〃		15				
動物発生工学	2	木1,2	〃	30				李　　智博	
栄養代謝機構学1	1	月4	〃	15				本田　和久	
栄養代謝機構学2	1	月4	〃		15				
動物代謝制御学1	1	月2	〃			15		上曽山　博	
動物代謝制御学2	1	月4	〃				15		
動物分子形態学1	1	水2	〃	15				星　　信彦	
動物分子形態学2	1	水2	〃		15				
微生物分子生態学	2		〃						19年度不開講
動物感染機構学	2	木1,2	〃		30			佐伯　圭一	
有用動物資源学1	1	火1	〃			15		大山　憲二	
有用動物資源学2	1	火1	〃				15		
シグナル分子機構論1	1	月3	〃	15				吉川　　潮	
シグナル分子機構論2	1	月2	〃		15			中嶋　昭雄	
資源植物生理生化学	2	月4,5	〃				30	畠中　知子	
植物分子育種方法論	1	火2	〃				15	石井　尊生	
森林・緑地環境学A	1	火3	〃			15		黒田　慶子 石井　弘明	
森林・緑地環境学B	1	火3	〃				15	石井　弘明 黒田　慶子	
植物遺伝資源利用学	2	月1,2	〃			30		片山　寛則 山崎　将紀	
園芸植物防除・育種論	2	火3,4	〃		30			安田　剛志	
園芸資源利用学	2	水3,4	〃	30				野村　啓一	
野菜生産開発論A	1	木1	〃				15	宇野　雄一	
野菜生産開発論B	1	木2	〃				15		
ゲノム園芸学	2	集中	〃				30	藤本　　龍	
花卉生産開発論	2	水2 金2	〃		30			金地　通生	
熱帯植物生理学	2	水1,2	〃			30		東　　哲司	
熱帯植物生産学	2	水1,2	〃				30	深山　　浩	

果実成熟生理学	2	集中	〃		30			板村　裕之	集中・隔年(20年度開講)
*有用生物利用学（連携）	2	集中	〃		30			連携教員	集中
*課題開発演習	2		〃	30				各教員	
*特別連携講義	2		〃			30		連携教員	
国際植物防疫演習	1	集中	〃		30			農学部教員	集中・隔年(20年度開講)
*特定課題演習Ⅰ－1	3		必修	45				各教員	
*特定課題演習Ⅰ－2	3		〃	45				〃	
*特定課題演習Ⅱ－1	3		〃	45				〃	
*特定課題演習Ⅱ－2	3		〃	45				〃	
*(その都度定める科目)	1～4		選択						
(研究指導)									

（前期課程）

（生命機能科学専攻）※グローバルコースを除く

授業科目	単位数	開講曜日時限	必修・選択の別	授業時間数				授業担当教員	備考
				1年次					
				1Q	2Q	3Q	4Q		
*先端融合科学特論 A（健康生命編）	1	金 1	必修			15		各教員	
*先端融合科学特論 B（Advanced Science and Technology）	1	金 1	選択	15				〃	
食料・環境・健康生命（食料編）A	1		〃						19 年度不開講
食料・環境・健康生命（食料編）B	1		〃						19 年度不開講
食料・環境・健康生命（環境編）A	1		〃						19 年度不開講
食料・環境・健康生命（環境編）B	1		〃						19 年度不開講
食料・環境・健康生命（健康生命編）A	1		〃						19 年度不開講
食料・環境・健康生命（健康生命編）B	1		〃						19 年度不開講
生命機能科学プレゼンテーション演習Ⅰ	2		必修	30				専攻教員	
生命機能科学 プレゼンテーション演習Ⅱ	2		〃			30		〃	
*Intermediate Techniques in English Speech Delivery	2	集中	選択		30			土佐　幸雄 Mabini DG. Dizon	
分子細胞生物学	2	月 3,4	〃	30				金丸　研吾	
蛋白質化学	2	金 1,2	〃			30		宇野　知秀	
機能分子有機化学論 1	1	火 1	〃			15		三宅　秀芳	
機能分子有機化学論 2	1	火 1	〃				15		
生理活性分子論 1	1	水 2	〃			15		久世　雅樹	
生理活性分子論 2	1	水 2	〃				15		
植物機能化学	2	月 1,2	〃	30				杉本　幸裕	
植物酵素化学 1	1	木 1	〃			15		水谷　正治	
植物酵素化学 2	1	木 1	〃				15		
動物性食品機能論	2	火 4,5	〃	30				白井　康仁	
動物性資源化学論	2	月 3,4	〃			30		山之上　稔	
応用微生物学	2	水 1,2	〃	30				竹中　慎治	
微生物ゲノム学	2	水 1,2	〃			30		吉田　健一	
分子栄養学	2	月 3,4	〃		30			芦田　　均 山下　陽子	
糖質機能成分開発論	2	火 3,4	〃		30			水野　雅史	
タンパク質構造・機能論	2	集中	〃		30			三上　文三	集中・隔年（19年度開講）
食品生理機能学 A	1	水 2	〃	15				橋本　堂史	
食品生理機能学 B	1	水 2	〃		15				
根圏土壌化学 1	1	月 3	〃	15				藤嶽　暢英	
根圏土壌化学 2	1	木 4	〃	15					
土壌機能解析学 1	1	月 3	〃				15	藤嶽　暢英	
土壌機能解析学 2	1	木 4	〃				15		
光合成生理生化学 1	1	火 1	〃			15		三宅　親弘	
光合成生理生化学 2	1	火 2	〃			15			
栽培植物進化学 1	1	金 2	〃			15		森　　直樹	
栽培植物進化学 2	1	金 2	〃				15		
植物発生遺伝学 1	1	火 1	〃				15	宅見　薫雄	
植物発生遺伝学 2	1	火 2	〃				15		
*応用植物栄養生理学	2	集中	〃		30			牧野　　周	集中・隔年（19年度開講）
生体応答細胞学 A	1	火 3	〃			15		池田　健一	
生体応答細胞学 B	1	火 3	〃				15		
環境分子制御科学 1	1	月 2	〃	15				今石　浩正	
環境分子制御科学 2	1	月 2	〃		15				
環境分子計測科学	2	水 1,2	〃				30	森垣　憲一	

環境バイオアッセイ論１	1	木１	〃	15				乾　　秀之	
環境バイオアッセイ論２	1	木１	〃		15				
植物病害診断技術論 A	1	火５	〃			15		土佐　幸雄	
植物病害診断技術論 B	1	火５					15		
ゲノム機能制御学１	1	木２	〃	15				中屋敷　均	
ゲノム機能制御学２	1	木２			15				
時間生物学１	1	水３	〃			15		坂本　克彦	
時間生物学２	1	水３					15		
昆虫管理学１	1	木３	〃	15				前藤　　薫	
昆虫管理学２	1	木３			15				
群集生態学１	1	木３	〃			15		杉浦　真治	
群集生態学２	1	木３					15		
* 課題開発演習	2		〃	30				各教員	
* 特別連携講義	2		〃			30		連携教員	
* 特定課題演習Ⅰ－１	3		必修	45				各教員	
* 特定課題演習Ⅰ－２	3		〃	45				〃	
* 特定課題演習Ⅱ－１	3		〃	45				〃	
* 特定課題演習Ⅱ－２	3		〃	45				〃	
*（その都度定める科目）	１～４		選択						
（研究指導）									

（後期課程）

（食料共生システム学専攻）

授業科目	単位数	開講曜日時限	必修・選択の別	授業時間数				授業担当教員	備考
				1～3年次					
				1Q	2Q	3Q	4Q		
流域環境学1	1	水4	選択			15		田中丸　治哉 多田　明夫	
流域環境学2	1	水4	〃				15		
地域計画学特論1	1	火2	〃	15				長野　宇規	
地域計画学特論2	1	火2	〃		15				
生産土地環境論1	1	水4	〃	15				河端　俊典	
生産土地環境論2	1	水4	〃		15				
水利施設工学特論1	1	月1	〃	15				井上　一哉	
水利施設工学特論2	1	月1	〃		15				
テラメカニクス特論1	1	水3	〃			15		伊藤　博通	
テラメカニクス特論2	1	水3	〃				15		
統合生産システム論1	1	木2	〃	15				庄司　浩一	
統合生産システム論2	1	木2	〃		15				
ポストハーベスト工学特論1	1	火2	〃	15				井原　一高	
ポストハーベスト工学特論2	1	火2	〃		15				
生体計測工学特論1	1	月2	〃	15				Tzenkova Roumiana	
生体計測工学特論2	1	月2	〃		15				
食料需給経済論1	1	火3	〃	15				草苅　仁	
食料需給経済論2	1	火3	〃		15				
農業経営戦略論1	1	火4	〃	15				小野　雅之 中塚　雅也	
農業経営戦略論2	1	火4	〃		15				
食料情報システム論1	1	木1	〃			15		金子　治平 石田　　章	
食料情報システム論2	1	木1	〃				15		
Comprehensive Techniques in English Speech Delivery	2	集中	〃		30			土佐　幸雄 Mabini DG. Dizon	
特定研究1	1		必修	30				各教員	
特定研究2	1		〃	30				〃	
特定研究3	1		〃	30				〃	
特定研究4	1		〃	30				〃	
特定研究5	1		〃	30				〃	
特定研究6	1		〃	30				〃	
（その都度定める科目）	1～4		選択						
（研究指導）									

（後期課程）

（資源生命科学専攻）

授業科目	単位数	開講曜日時限	必修・選択の別	授業時間数 1～3年次 1Q	2Q	3Q	4Q	授業担当教員	備考
動物生殖生理論	2	火 1,2	選択		30			宮野　隆 星　信彦 原山　洋 吉川　潮 李　智博 中嶋　昭雄	
生体調節機構論 A	1	水 3	〃	15				大澤　朗 上曽山　博 佐伯　圭一 本田　和久	
生体調節機構論 B	1	水 3	〃		15				
資源植物開発論 A	1	月 4	〃			15		黒田　慶子 石井　弘明 東　哲司 畠中　知子 深山　浩 笹山　大輔	
資源植物開発論 B	1	月 4	〃				15		
応用園芸資源論 A	1	月 4	〃	15				野村　啓一 金地　通生 安田　剛志 宇野　雄一 藤本　龍	
応用園芸資源論 B	1	月 4	〃		15				
先端遺伝育種論	2	火 3,4	〃		30			石井　尊生 万年　英之 大山　憲二 片山　寛則 笹崎　晋史 山崎　将紀 石川　亮	
有用生物資源開発論（連携）	2	集中	〃		30			連携教員	
Comprehensive Techniques in English Speech Delivery	2	集中	〃		30			土佐　幸雄 Mabini DG. Dizon	
特定研究 1	1		必修	30				各教員	
特定研究 2	1		〃	30				〃	
特定研究 3	1		〃	30				〃	
特定研究 4	1		〃	30				〃	
特定研究 5	1		〃	30				〃	
特定研究 6	1		〃	30				〃	
（その都度定める科目）	1～4		選択						
（研究指導）									
（研究指導）									

（後期課程）

（生命機能科学専攻）

授業科目	単位数	開講曜日時限	必修・選択の別	授業時間数 1～3年次 1Q	2Q	3Q	4Q	授業担当教員	備考
先端遺伝科学 A	1	月 5	選択	15				土佐　幸雄 森　　直樹 宅見　薫雄 中屋敷　均 吉田　健太郎	
先端遺伝科学 B	1	月 5	〃		15				
先端分子生物学 A	1	月 2	〃	15				森垣　憲一 乾　　秀之	
先端分子生物学 B	1	月 2	〃		15			三宅　親弘 坂本　克彦	
微生物機能利用学 A	1	火 3	〃	15				吉田　健一 金丸　研吾 竹中　慎治	
微生物機能利用学 B	1	火 3	〃		15				
蛋白質機能論 A	1	水 3	〃	15				山之上　稔 今石　浩正 宇野　知秀	
蛋白質機能論 B	1	水 3	〃		15				
有機合成・物質代謝論 A	1	木 2	〃	15				芦田　　均 三宅　秀芳 久世　雅樹 橋本　堂史 山下　陽子	
有機合成・物質代謝論 B	1	木 2	〃		15				
生理活性物質論 A	1	火 2	〃	15				杉本　幸裕 水野　雅史 白井　康仁 水谷　正治	
生理活性物質論 B	1	火 2	〃		15				
生態・環境制御論 A	1	月 3	〃	15				前藤　　薫 藤嶽　暢英 杉浦　真治 池田　健一	
生態・環境制御論 B	1	月 3	〃		15				
Comprehensive Techniques in English Speech Delivery	2	集中	〃		30			土佐　幸雄 Mabini DG. Dizon	
特定研究 1	1		必修	30				各教員	
特定研究 2	1		〃	30				〃	
特定研究 3	1		〃	30				〃	
特定研究 4	1		〃	30				〃	
特定研究 5	1		〃	30				〃	
特定研究 6	1		〃	30				〃	
（その都度定める科目）	1～4		選択						
（研究指導）									

5　修学上の一般的事項

1　教育課程・教育方法について

大学院における教育課程は，その大学院の教育目的に応じて，教育上必要な授業科目を開設し，これを組織的・体系的に編成し，実施するものとされています。

また，授業科目の授業のほか，学位論文の作成等に対する指導（研究指導）を行うものとされています。

2　授業について

(1) 学期及びクォーターについて（授業期間）

本学では，年度を前期（4月1日～9月30日），後期（10月1日～翌年3月31日）の2期に区分する2学期制をとっております。平成28年度からは前期・後期の授業期間をそれぞれ半分に分け，各8週で授業を行うクォーター制を導入します。

(2) 授業の方法

各授業科目の授業は，講義，演習又は実験・実習により行います。

(3) 授業科目の単位

各授業科目は，教育研究上の目的にそって，多様な履習が可能となるように単位制がとられており，授業科目ごとに単位数を定めて開設します。

各授業科目の単位数は，1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし，授業の方法に応じて，当該授業による教育効果，授業時間外に必要な学修等を考慮して計算するものとされており，講義及び演習については，15時間から30時間までの範囲で，実験及び実習については，30時間から45時間の範囲で大学が定める時間の授業をもって1単位とすることとされています。

これにより，本研究科における講義による授業科目については，15時間の授業をもって1単位，演習による授業科目については，授業科目により15時間又は30時間の授業をもって1単位及び実験・実習による授業料目については30時間の授業をもって1単位としています。

(4) 授業時間

本研究科における授業は，月曜日から金曜日まで，各5時限実施しています。

各時限ごとの授業開始・終了時刻は次のとおりです。

時限	授業開始・終了時刻
1	8：50 ～ 10：20
2	10：40 ～ 12：10
3	13：20 ～ 14：50
4	15：10 ～ 16：40
5	17：00 ～ 18：30

3　授業科目及び履修要件について

(1) 授業科目

①　本研究科の授業科目は，研究科規則に定められており，各授業科目の開講予定年次，授業科目の概要等については，各専攻の講義概要等に掲載しています。

②　各授業科目は専攻ごとに開設されますが，授業科目によっては複数の専攻に亘って開設するものがあります。

(2) 履修要件

修了に必要な修得単位は，前期課程は 30 単位以上，後期課程は 10 単位以上ですが，各専攻の履修要件は，次表のとおりです。

（前期課程）

専　　攻	履　修　要　件	
	必　修	選　択
食料共生システム学専攻	17単位	13単位以上
資源生命科学専攻	17単位	13単位以上
生命機能科学専攻	17単位	13単位以上

※前期課程の選択科目には，下記の科目を 6 単位まで算入することができます。

①他専攻の授業科目を履修したとき。

②農学部，並びに本学の他研究科，他学部の授業科目について指導教員が必要と認め履修したとき。

③他大学大学院（外国の大学を含む。）の授業科目について指導教員が必要と認め，かつ所定の手続きを経て履修したとき。

（後期課程）

専　　攻	履　修　要　件		
	必　修	選択（自専攻）	選択（他専攻）
食料共生システム学専攻	6 単位	2 単位以上	2 単位以上
資源生命科学専攻	6 単位	2 単位以上	2 単位以上
生命機能科学専攻	6 単位	2 単位以上	2 単位以上

4　研究指導について

大学院の教育方法については，大学院設置基準第 11 条に，「大学院の教育は，授業科目の授業及び学位論文の作成等に対する指導（以下「研究指導」という。）によって行うものとする。」と規定されています。この場合において，授業科目の授業は単位制度によるものであり，研究指導は単位制度によらないものであって，単位制度によらず多様なかたちで行われる研究指導が大学院の教育上重要な意義を有するものとされています。

本研究科前期課程の修了要件については，研究科規則第 32 条第 1 項において，研究科前期課程に 2 年以上在学し，30 単位以上を修得し，かつ，必要な研究指導を受けた上，修士論文の審査及び最終

試験に合格することの主旨が規定されており，研究指導は，課程修了のための重要な要件の一つとなっています。

本研究科後期課程の修了要件についても，研究科規則第 32 条第 2 項において，研究科に 3 年以上在学し，10 単位以上を修得し，かつ，必要な研究指導を受けた上，博士論文の審査及び最終試験に合格することと規定されており，研究指導は，課程修了のための重要な要件の一つとなっています。

本研究科における研究指導は，入学した学生ごとに，指導教員が研究指導題目を定め，指導教員と関連分野の教員により，幅広く効果的に指導を行うほか，総合研究プロジェクトに参加させる等，研究能力の向上や共同研究の手法にも習熟できるよう配慮しています。

◆社会人学生のための教育方法の特例について

農学研究科博士課程後期課程では，大学院設置基準 14 条に定める教育方法の特例を実施しています。概要は次のとおりです。

1．　指導教員の合意を得て，授業及び研究指導の一部を夜間及び特定の時期に受講することができます。

2．学位論文の作成が進展しており，企業等に研究に関する優れた施設や設備があり，それを用いた方が成果が上がると，指導教員が認める場合は，勤務する企業等においても研究することができます。

5　履修手続について

授業科目の履修に当たっては，履修要覧に掲載している「授業科目開講予定一覧表」及び毎学期の当初に配布する「授業時間割表」に定めるところに従い，履修授業科目を綿密に検討し，指導教員の承認を得た上で履修するようにしてください。履修登録は，学期の初めにパソコンから Web 画面で登録を行い，履修・登録一覧（提出用）を登録期間内に下記の提出先に提出してください。また，他研究科の授業科目を履修しようとするときは，登録期間前に事前登録を行う（受講許可カードを提出する）場合があるので，ホームページの履修登録関係画面で確認してください。

〔注意事項〕

①　登録方法・登録期間等

各学生に配付するマニュアルを熟読の上，Web 画面で登録を行ってください。

（登録期間）

前期・後期：掲示等でお知らせします。

申請コードについては，必ず所属専攻の申請コードを記入してください。（同一授業名でも専攻により申請コードが異なります。）

また，大学側のデータ作成ミス等により履修登録エラーが発生した場合については，その都度，掲示・ホームページ上でお知らせします。未確認から生じる不利益は，本人がその責を負うことになりますので注意してください。

②　提出先

農学研究科教務学生係

③　提出方法

パソコンからWeb画面で登録を行った後，履修・登録一覧（提出用）に指導教員の承認印を得てから提出してください。履修・登録一覧（提出用）の提出がない場合は，システム障害等による履修登録エラーの救済対象にはなりませんので，注意してください。

④　履修登録されていない授業科目は，たとえ履修・受験しても無効です。

6　定期試験について

定期試験は，授業が終了した後に実施しますが，担当教員によっては授業の終了する前に行うこともあります。

また，定期試験をせずに，平常の成績，レポート等をもって定期試験の代わりとする場合もあります。

レポートをもって試験に代えるときは，提出期限を厳守してください。試験はあらかじめ正規の届をした授業科目のみ受験することができます。定期試験時間割表及び試験室の指定は，その都度掲示等をするので注意してください。

〔定期試験受験の際の注意事項〕

①　試験の時間割及び試験室の指定は，その都度掲示する。

②　受験中は，必ず学生証を机上左前に置くこと。

③　机の上には，鉛筆（シャープペン，ボールペンを含む。）消しゴム，定規類，学生証，時計及び特に受験に際し許可された携帯品以外の物は置かないこと。なお，筆箱，下敷，定期入れ等は座席の下に置くこと。ただし，貴重品は各自保管すること。

④　携帯電話等の通信機器（腕時計型端末を含む）を使用することは一切認めないので，必ず電源を切った上で鞄等の中へしまうこと。アラームの設定を解除していない場合，電源を切っていても鳴ることがあるので，試験室に入る前に必ずアラームの設定を解除しておくこと。試験中にこれらの機器に触れている場合もしくは机の上あるいは中に置いてある場合は，不正行為とみなす。（ただし，試験監督教員の指示がある場合を除く。）

⑤　答案用紙には，学籍番号，氏名を必ず記入すること。記入のない答案は無効とする。

⑥　20分経過後は絶対に入室を認めないので，遅刻のないよう十分注意すること。

⑦　試験開始後20分間は退室しないこと。退室する場合は，答案用紙を試験監督に提出すること。

⑧　受験中の物品の貸借は一切禁止する。

⑨　受験中，いかがわしい態度や，不正行為は厳に慎むこと。

⑩　受験者以外の者が受験者本人になりすまして試験を受けた場合は，不正行為とみなす。

⑪　答案用紙は，絶対に持ち出さないこと。持ち出した場合は不正行為とみなすことがある。

〔レポートでの不正行為について〕

レポートなどで不正行為と見なされる行為は，一般的には，下記の事項がある。

① 他人の文章や着想などを自分のものとして用いている。
② 他人の著作物を引用する際に，引用箇所や出典を明示していない。
③ 他人の著作物を参照する際に，出典を明示していない。
④ 他人にレポートの代筆を依頼する。
⑤ 他人のレポートを流用する。
⑥ 他人のレポートを代筆する。
⑦ 作成したレポートを，流用されることを承知しながら，他人に見せる。
⑧ 教員の指示に意図的に従わない。

学生が試験及びレポート等において不正行為を行った場合，当該科目を開講する学期に履修した全ての授業科目の成績を**無効**とします。

7 履修取消制度について

学期初めに履修登録を行った科目について，途中で履修を中止したい場合，クォーター毎に設けられる履修取消期間中に，履修を取り消すことができます。

☆履修登録や履修取消は，原則として学生自らが「うりぼーネット」（Ｗｅｂ）で行います。
・取り消した科目は，「履修科目一覧表」や「学業成績表」で確認できます。

・履修取消期間中に取り消さなかった科目は，成績評価の対象となります。取り消さずに途中で履修を中止した場合，成績評価は「不可」（不合格）となりますので，注意してください。

・取り消した科目は，履修取消期間終了後，その学期中に再び受講（履修）することはできません。
・通年開講科目は，前期でも後期でも取消が可能ですが，前期に取り消した場合，後期に再び履修登録することはできません。

※修学上の理由から，「履修取消ができない科目」と「履修取消期間中に取消ができない科目」があります。詳細については，所属学部・研究科毎にお知らせします。

6　教員職員免許状の取得について

農学研究科博士課程前期課程においては，次の教育職員免許状を取得することができます。

（1）取得できる免許状

専　　攻	免 許 状 の 種 類	免 許 教 科
食料共生システム学専攻 資 源 生 命 科 学 専 攻 生 命 機 能 科 学 専 攻	高等学校教諭専修免許状	農　　業

（2）基礎資格

上記の免許状を取得するためには，修士の学位取得及び農業の高等学校教諭一種免許状を取得又は取得のための所要資格を有していることが必要です。

（3）専修免許状の取得の要件格

高等学校教諭専修免許状を取得するためには，上記の基礎資格を得ていること，及び大学院の課程において，教育職員免許法第５条別表第１に定める「大学が独自に設定する科目」について24単位以上を修得することとされています。

農学研究科博士課程前期課程では，各専攻の「授業科目開講予定一覧」の授業科目（ただし，＊印を付している授業科目を除く。）を履修し，24単位以上の単位を修得することにより，本研究科で取得可能な免許状を取得することができます。なお，科目名に１，２又はA，Bとつく科目については，それぞれ両方修得する必要があります。